

令和3年度 第1回子ども・子育て会議 会議録

会議名	令和3年度 第1回子ども・子育て会議
日時	令和3年8月11日(水) 午後2時00分～午後4時00分
会場	村上市役所4階 大会議室
出席者	※㊦…オンラインでの参加 委員：11人(㊦仲委員、富樫委員、遠藤委員、竹内委員、剣持委員、平野委員、黒子委員、長委員、㊦上島委員、加藤委員、松田委員)
	欠席委員：神田委員、齋藤委員、大滝委員、本間委員
	アドバイザー：㊦小池氏 (藤瀬氏欠席)
	事務局：中村こども課長、信田保健医療課長、木村福祉課長、渡辺学校教育課長、荒川支所地域振興課 瀬賀課長補佐、朝日支所地域振興課 中嶋課長補佐、山北支所地域振興課 齋藤課長補佐、こども課 小林副参事、石山係長、高橋課長補佐、渡辺係長、大倉主任 事務局G：株式会社ぎょうせい ㊦長澤、㊦亀山、㊦新井

会議録	
1	開会 定刻に開会
2	市長あいさつ
3	委員長あいさつ  ※委員名簿に修正あり、資料を机上配付にて差し替え
4	アドバイザーによる子どもの貧困対策に関する講演 (新潟県立大学人間生活学部子ども学科 小池由佳教授)
5	議事 ※委員15名中11名の出席(オンライン参加2名含む)により審議会成立を報告 ※以下、委員長による進行
(1) 村上市子どもの貧困対策計画策定のスケジュールについて	

資料No. 1 に沿い事務局から説明

委員長：ただ今の説明に質問・意見等はあるか。

※特になし

(2) アンケート調査等の概要について

資料No. 2 に沿い事務局から説明

委員長：ただ今の説明に質問・意見等はあるか。

委員：対象者は小学校1年生、小学校5年生約400名ずつなどとなっている。アンケートは子どもにも行うのか。地域まちづくり協議会でも小学生に対し行っているが、小学校1年生でもアンケートはわかるのか。

事務局：小学校1年生、5年生ともに、子ども本人へのアンケートも想定している。先生にリードをお願いし、内容も小学校1年生でできるものとする予定。

委員：子ども自身の生の声を聞けるのは貴重な機会であろう。

委員：地域まちづくり協議会でも、地域と子どもとの関わりに関して様々な活動を行っているが、地域まちづくり協議会の役員などにもヒアリングで意見を聞いてもらうことはできないか。

事務局：地域まちづくり協議会への意見聴取については内部で検討していきたい。

委員：高校2年生に相当する者へのアンケートは郵送となると回収率が下がりそうだが、何か方策は考えているか。

事務局：郵送調査では回答が半数以下になるかもしれない。回答に要する時間の目安を示すなど、アドバイザーとも相談している。

委員：スマートフォンやタブレットなどによるオンライン回答は考えられないか。

事務局：オンラインでの回答は、現在のところ考えていない。

委員長：ただ今のご提案は貴重である。書面だと忙しい保護者も多いだろうが、スマートフォンやタブレットなどの利用は増えており、それらで回答できる方法を検討願いたい。あくまで要望としてであるが。

事務局：紙による記入で考えているが、コンサルタントとも相談して検討していく。あわせて内部でも検討する。

アドバイザー：小学校1年生のアンケートは保護者だけと思っていたが、子どもにも行うということで少し驚いた。しかし1年生だからわからないということばかりでもないだろう。それをどう活かすかを大事にしていきたい。また、ご意見から、村上市は地域まちづ

くり協議会が積極的との印象を受けた。アンケートやヒアリングで、今の地域の力を活かせるように検討してはどうか。

委員：地域まちづくり協議会では、子どもたちが総合学習で学習しやすいように学校と協力するなど、各地域の特色を出して頑張っているところである。

委員：小学校1年生へのアンケートについて、保護者としてお願いがある。はく奪指標にクリスマスプレゼントについての案があるが、サンタクロースの存在について配慮を願いたい。

事務局：配慮する。

委員長：意見を聞きたい相手にアンケートの意図が届くかが心配なところでもあるが、その点のご意見はどうか。

委員：小学校1年生でも記入できる内容、長時間かからないもの、担任が項目を読み上げるなどの方法をとると事務局から事前説明を受けている。他の学年は3歳おきであり、小学校2年生対象ではどうかと思ったところだが、保育園、幼稚園から上がった直後の1年生対象というのもよいかと思ったところである。

アドバイザー：小学校1年生の該当人数はどのくらいになるか。

事務局：400人程度である。

アドバイザー：どこの学校でも同じようにできるということが大事である。

事務局：8月30日に各校長に説明と再度のお願いをさせていただく予定。

委員長：他に保護者の立場の委員から意見はないか。

委員：長男が小学校1年生である。果たして1年生で結果が出るのだろうかとは思いますが、先生のアドバイスや読み上げなどのフォローがあれば少しは理解して答えられるかなと思う。保護者に対してはどのように行うのか。

事務局：保護者のアンケートは子どもに持って帰ってもらって自宅で書いてもらい、学校経由で回収する。

事務局G：子どもは学校で記入、保護者は自宅で記入。双方に紐づけのためのコード番号を印字し、別々に調査票を回収しても後で関連付けができるようにする。記入内容が親に見られることはないということで、子どもの心情にも配慮した方法と考える。

委員：先ほどの委員意見にあったとおり、11月とは言え入学後半年程度なので、子どもの実態を考えると書かされる子どもの心情は、先生のリードがあったとしても心配である。

委員長：学校で書かせることになっても心配との意見である。この点はどうか。

事務局G：小学校1年生への質問内容は他の学齢とは全く異なり、言葉も文字づかいも1年生向けのものとする予定。小学校5年生以上では子ども本人に聞く所有物などについての項目も小学校1年生の場合は保護者に聞いて補完する形を考えている。

委員長：他にはあるか。ぜひ、地域でご活躍の方の意見をうかがいたい。

委員：聞きたいことはあったが、他の委員の質問ですべて解消された。

委員長：保護者のお立場の委員のご意見は他にないか。

委員：日頃から保護者に対するアンケートが学校から来ると、父親ではなく母親の私が答えることになるのが実態である。保護者への質問は父親も書けるものになってるのか。

事務局G：なっている。例えば職業についてなどはお父さん、お母さんそれぞれに設問が設けられている。

委員：全住民アンケートでは家族全員の意見をとっており、結果は父と母で異なってくる。どうせならば父親・母親のそれぞれへの調査票としてはどうか。

事務局G：冒頭の設問で回答者と子どもとの関係（続柄）を聞く。父親、母親のほか、祖父母や兄弟姉妹という選択肢まであり、回答者による違いをクロス分析することは可能。

委員：高校2年生相当の学齢では、家庭の事情で進学を諦めたり、進路変更を余儀なくされた児童はいないのか。答えやすいよう配慮しながらこの質問をアンケートに取り入れていただきたい。

委員長：他に保護者のお立場の委員はどうか。

委員：先ほどの講義で、全国では母子世帯の貧困が多いという話があった。村上市でもひとり親の状況や貧困状況がわかる調査を行う予定か。

アドバイザー：どこかに貧困か否かの線引きをしないと、相対的貧困の状況は見えてこない。線の引き方については自治体によって考え方も異なることから検討が必要。各自治体の知見も出てきている。そのあたりを反映させながらと考える。

委員長：他になければ質疑は以上とする。

## 6 その他

委員の任期と改選について。現在の委員は8月27日までが任期。再任の場合でも改めて手続きが必要である旨事務局より説明。

議事録は事務局で作成し、委員に後日送付して確認いただく。

委員長：他に何かあるか。

委員：以前からこの会議でも重要と指摘され課題となっていた屋内外の遊び場について。準備中の屋内の遊び場が来年春からでないと使えないが、これはどうなっているか。

事務局：予定どおり来年4月のオープンで準備を進めている。

委員：体育館だけの整備か。

事務局：今進めているのは体育館の部分。子どもが屋内で遊べるよう工夫しているところ。

委員：体育館に限らず、教室なども活用できないか。小さい子どもと親が遊べる場所など考えてほしい。年齢差の大きい子どもたちが同じ場所で遊ぶ危険性も考えられる。指定管理者をおくかたちとなるのか。

事務局：指定管理者制度を導入するかは未定。全体として子育て施設の意味合いを想定しているので今のご意見のような使い方も想定している。

※以下、事務局による進行

#### 7 次回日程

事務局：第2回会議を9月下旬から10月上旬と考えており、詳細は改めてご案内する。

#### 8 閉会のあいさつ 富樫副委員長

午後4時00分 終了